

2021 年度

国府台女子学院 中学部

第二回入試

国 語 (50 分)

【注 意】

1. この問題は、「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
2. **受験番号**は解答用紙の決められたところにはっきりと書いてください。
3. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
4. 印刷が不鮮明ふせんめいでわからない場合や、その他わからないことがあった場合には、だまって手をあげ、先生にたずねてください。
5. **答えは、すべて別紙解答用紙に記入してください。**

注意Ⅱ句読点や記号もそれぞれ一字と数えます。

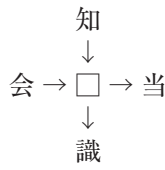
□ 次の各問題に答えなさい。

問一 次の①～⑤の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字はよみがなをひらがなで答えなさい。

- ① ニッシン月歩の科学技術。
- ② 首相のシヨシン表明。
- ③ オウライの激しい道。
- ④ 背後から操られた存在。
- ⑤ この職務を君に委ねよう。

問二 それぞれの矢印の向きにしたがって適切な二字熟語ができるように、

□に共通する漢字一字を答えなさい。



問三 次の文の()に入る適語をあとのア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

出席者全員の()が得られたことにより、その議案は可決された。

- ア プラン イ サプライズ
- ウ コンセンサス エ アテンダント

問四 現代の日常生活においてよく使われる「WING」はどのような意味を持つ、どのような言葉の略語でしょうか。次のア～エより最も適切な説明を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「翼と想像性」のような意味を持つ「wings and fictions」の略。
- イ 「ウィンドウズの成果」を象徴する意味を持つ「windows' findings」の略。
- ウ 「広い領域」という意味を持つ「wide fields」の略。
- エ 「無線の忠実性」といった意味を持つ「wireless fidelity」の略。

問五 次の熟語の□(偏)に共通してあてはまる部首を入れて完成する熟語の読みを書きなさい。

幾菴
□菴

問六 次の四字熟語の□にはすべて漢数字が入ります。これらをすべて足した数を算用数字で答えなさい。

- 知半解 □律背反 □束□文 □面楚歌 □里霧中

問七 次のア～エの□にはすべて動物の名前が入りますが、そのうち「泥棒」の意味を表す表現を一つ選び、記号で答えなさい。またその□に入る語をひらがなで答えなさい。

- ア 頭の黒い□ イ 同じ穴の□
- ウ 九□の一毛 エ 張り子の□

問八 次の□には、昔話の「桃太郎」に登場するものが入ります。■にあてはまる語をひらがなで答えなさい。

飼い□に手を噛まれる □も木から落ちる □の目にも涙

■も鳴かずに打たれまい

問九 次の四つの漢字に共通して示される言葉の意味として最も適切なものを、あとのア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

程 際 品 格

ア 種類 イ きまり ウ 距離 エ 身分

問十 「(1)の(2)、(3)で(4)した」の()にすべて「キシヤ」と読む語を入れる場合、最も適当な漢字を次からそれぞれ選び、順に記号で答えなさい。

ア 帰社 イ 記者 ウ 汽車 エ 貴社

問十一 次の説明に合った「日本の古典芸能」を答えなさい。ひらがなでもかまいません。

廻り舞台や花道、奈落などの舞台装置、隈取という特殊な化粧法、見得をきる姿など独自の演出に特徴がある。役者は家ごとに決まる屋号を持ち、名は世襲にて引き継がれるのが一般的だ。代表的な演目に「仮名手本忠臣蔵」(時代物)、「東海道四谷怪談」(世話物)、「京鹿子娘道成寺」(所作事)などがある。

問十二 「くはず」と「くわけ」は、「そんなはずはない」「そんなわけはない」のように、同様の使われ方をしているように思われますが、次の①～③の例文において、「○」の文は自然ですが、「×」の文は不自然だといえます。

- ① もうすぐ彼が来るはずだ。○
- ② もうすぐ彼が来るわけだ。×
- ③ 君は将来、立派な大人になるはずさ。○
- ④ 君は将来、立派な人になるわけさ。×
- ⑤ 今日雪だったけれど、明日は晴れるはずだ。○
- ⑥ 今日雪だったけれど、明日は晴れるわけだ。×

・これら①～③の文における「くはず」と「くわけ」の使い分けについて、次のように説明しました。()に共通してあてはまる適切な語を、漢字二字で答えなさい。

「くはずだ」は()のことに用いるが、「くわけだ」は()のことに用いると不自然になる。

問十三 「閉口する」という語を用いて、二十字以上三十字以内で短文を作りなさい。後に続く言葉によって、語尾が変わっても良いこととします。

② 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一 時間目のお話の最初に「雑草を育てるのは大変だ」と言いました。

そして、それは「思うとおりに育たないからだ」と言いました。思うとおりにするのは、「人間が思うとおりに」ということです。

雑草にしてみれば、何も思い通りに育つ必要はありません。思い通りに行かないと大騒ぎしているのは、人間であり植物学者の私です。

本当は、雑草にとつては、芽は出さなくてもいいのです。成長がバラバラなのが、雑草の大切になっている価値なのです。

しかし、それでは私が困ってしまいます。

私は、思い通りに雑草を育てたいと思つていますし、実験をするためには、バラバラではなく、雑草に揃つてほしいと思つています。

もっとも雑草は、人間に育てられたいと思つているわけではありませんし、ましてや実験してほしいと思つているわけでもありません。

雑草はバラバラでも、困りません。バラバラだと困るのは、管理する人のほうなのです。

私たちの世界には、管理する人がいます。学校には先生がいます。会社には社長さんがいます。国には総理大臣やえらい人たちがいます。

バラバラであることに価値があるのは、誰もが認めています。しかし、バラバラでは管理するのが大変です。そのため、人間はバラバラであるもの、できるだけ揃えようとします。バラバラであつてもいいけれど、あまりバラけ過ぎないように、ある程度の枠を設けます。

人間が作りだし、育ててきた植物を見てみてください。

自然界を生きる植物は、雑草と同じようにバラバラです。バラバラでなければ、さまざまな環境に適應することはできません。バラバラであることに価値があるのです。

しかし、人間が栽培する野菜や作物は、バラバラではありません。

芽が出る時期が揃わないと大変です。野菜の大きさがバラバラでは困りますし、作物の収穫時期が株によってバラバラでは困ります。そのため、野菜や作物は、できるだけ揃うように、改良が進められてきたのです。

揃えるためには、揃える基準が必要です。

たとえば、形が大きかったり、収量が多いという成績で、野菜や作物を評価し、優秀なものを選んできました。

こうして、「A化」が進められ、まるで工場のように農作物が生産され、まるで工業製品のようにきれいに箱詰めされて出荷され、B化されてきれいにお店に並べられるようになったのです。

生き物は本来バラバラです。バラバラになりたがるものを揃えることは大変なことです。しかし、人間は努力の末に「生き物を揃える」という技術を発達させてきました。それは大変な苦勞です。

しかし、「揃えること」を追い求めているうちに、本来の「バラバラであること」の価値を見失っているかもしれません。

自然界の生物はバラバラです。そこに優劣はありません。ただ、バラバラであることに価値があるのです。

理屈は頭でわかってても、実際に把握しようとする、人間の脳は混乱するばかりです。ものごとをできるだけ単純に理解したい人間の脳が理解できるはずはありません。

人間の脳は、できるだけ事態をシンプルにして、単純に理解したいのです。数値の順に並べただけでは、まだ理解できません。

先に述べたように、人間の脳は「たくさん」が苦手です。できれば、二つくらいのを比べて、どちらが大きいとか、どちらが小さいかと考えるくらいが、気持ちがいいのです。

そのために、人間が作りだしたものが「平均」です。

たくさんあるものをまとめて、「平均」というものを作ります。そして、平均の数値と比べれば、大きいとか、小さいとか、長いとか、短いとか判断できるのです。

【中略】

自然界は、ばらつくとはいっても、平均的なものが一番、数が多い多数派になるような気がします。

自然界では、生物の特性の分布は「正規分布」と呼ばれる分布をするものが多いことが知られています。確かに正規分布をみると、真ん中の平均値に近いものが多く、平均から離れるに従ってその頻度は少なくなります。

しかし、タンポポはすべて黄色い色をしているように、もし、平均値が優れているのであれば、どの個体も平均値に近づきます。

すべての個体が平均値でなく、ばらついているということは、そのばらつきに意味があるということなのです。

また、実際には、平均的なものが一番、数が多いとは限りません。

たとえば、雑草の長さでは、他の植物と競い合って高く伸びるものもあれば、他の植物と競争せずに、草丈を低くするという戦略もあります。他の植物と競い合って負けてしまうくらいの、中途半端な草丈が一番、不利なのです。この場合、分布をグラフで表すと()型になります。

平均がもつとも多いとは限らないのです。

【中略】

先述したように、人間が複雑な自然界を理解するときに「平均値」はとても便利です。そのため、人間は平均値を大切にします。そして、とにかく平均値と比べたがるのです。

平均値を大切にすると、平均値からはずれているものが邪魔になるような

気になってしまいます。

みんなが平均値に近い値なのに、一つだけ平均値からポツンと離れていると、何だかおかしい感じがします。何より、ポツンと離れた値があることによって、大切な平均値がずれてしまっている可能性もあります。

そのため、実験などではあまりに平均値からはずれたものは、取り除いて良いということになっています。

はずれ者を取り除けば、平均値はより理論的に正しくなります。値の低いはずれ者をなかつたことにすれば、平均値は上がるかもしれません。

こうしてときに「平均値」という、自然界には存在しない虚ろな存在のために、はずれ者は取り除かれてしまうのです。

しかし、実際の自然界には「平均値」はありません。「ふつう」もありません。あるのは、さまざまなのが存在している「多様性」です。

生物はバラバラであろうとします。そして、はずれ者に見えるような平均値から遠く離れた個体をわざわざ生み出し続けるのです。

どうしてでしょうか。

自然界には、正解がありません。ですから、生物はたくさんの方解を作り続けます。それが、Cを生み続けるということです。

条件によっては、人間から見るとはずれ者に見えるものが、優れた能力を発揮するかもしれません。

かつて、それまで経験したことがないような大きな環境の変化に直面したとき、その環境に適応したのは、平均値から大きく離れたはずれ者でした。

そして、やがては、「はずれ者」と呼ばれた個体が、標準になっていきます。そして、そのはずれ者がつくり出した集団の中から、さらにはずれた者が、新たな環境へと適応していきます。こうなると古い時代の平均とはまったく違った存在となります。

④じつは生物の進化は、こうして起こってきたと考えられています。

進化というのは、長い歴史の中で起こることなので、残念ながら、私たちは進化を観察することはできません。

しかし、「はずれ者」が進化をつくっていると思わせる例は見られません。たとえば、

D

ニュージーランドに棲むキウイは、飛べない鳥です。鳥が飛べないなんて、おかしいですよ。じつは、キウイの祖先は飛ぶことのできる鳥だったと考えられています。ところが、その中に飛ぶことの苦手な個体が生まれました。鳥なのに飛べないなんて、本当にはずれ者です。ただ、ニュージーランドには、キウイを襲う猛獣がいなかったので、飛んで逃げる必要がありません。飛ぶのが苦手な鳥は、飛ぶことが少ないので、エネルギーを使いません。その分、エサも少なくてすむかもしれませんし、節約したエネルギーでたくさん卵を産むことができます。もしかかもしれません。こうして飛ぶのが苦手な「はずれ者」が、飛ぶのが苦手な子孫をたくさん産み、飛べない鳥に進化していったと考えられているのです。

あるいは、ブラキオサウルスは、全長二五メートルを超えるような巨大な恐竜です。ところが、ブラキオサウルスの仲間のエウロパサウルスは、馬くらいの大きさしかありません。ブラキオサウルスの仲間にしては、とても小さな体なのです。

エウロパサウルスの祖先は巨大な恐竜だったと考えられています。ところが、エウロパサウルスはエサの少ない鳥で進化をしました。そのとき、小さな体の者が生き残り、やがて、小さな恐竜へと進化を遂げたのです。

新たな進化をつくり出すのは、常に正規分布のすみっこにいるはずれ者な

のです。

人間が作りだしたものは揃っています。

鉛筆の1ダースの本数がバラバラでは困ります。

1メートルのものさしの目盛りが、一本一本違っては困ります。

人間は、バラバラな自然界の中で、均一な世界を奇跡的に作り上げてきたのです。

しかし、自然界はバラバラです。

自然界では、違うことに意味があるのです。

あなたと私は違います。けっして同じではありません。

ただし、違いはありますが、そこに優劣はありません。

例えば、足の速さは、それぞれ異なります。ですから、足の速い子も遅い子もいます。これが運動会になれば、足の速い子は一位になるし、遅い子はビリになります。しかし、それはそれだけのことです。

自然界から見たら、そこには優劣はありません。ただ、「違い」があるだけです。

人間は優劣をつけたがります。しかし、生物にとっては、この「違い」こそが大切なのです。足の速い子と遅い子がいる、このばらつきがあるということが、生物にとっては優れたことなのです。

ところが、単純なことが大好きな脳を持ち、ばらつきのない均一な世界を作りだした人間はときに、生き物にばらつきがあることを忘れてしまいます。そして、ばらつきがあることを許せなくなってしまふのです。

私たちは人間社会で暮らしているのですから、人間の作りだした尺度を無視することはできません。人間が作りだした尺度に従うことも大切なことです。

すべての人が勉強をしている現代社会で、テストで良い点を取って、偏差値が高い優秀な学校へ進学できる人たちは、評価されるべきです。

多くの人たちがスポーツに取り組む中で、一流と呼ばれるアスリートとして、良い記録を出したり、良いパフォーマンスを見せてくれる人たちは、高い評価を得るべきです。

みんながお金持ちになりたいと思っている中で、仕事をして高い収入を得ている人たちも評価されるべきです。

しかし、それで人間に優劣がつくわけではありません。

人間が作りだした「ものさし」も大切ですが、本当は、その「ものさし」以外にも、たくさん価値があるということを忘れないことが大切なのです。つまり、「違い」を大切にしていくことなのです。

「ものさし」で測ることに慣れている大人たちは、皆さんにこう言うかもしれません。

E

管理をするときには、揃っている方が楽です。バラバラだと管理できません。そのため、大人たちは子どもたちが揃ってほしいと思うのです。

しかし本当は、同じようにできないことが、大切な「違い」なのです。

そんな違いを大切にしてください。

おそらく、皆さんが成長して社会に出る頃になると、大人たちは、今度はどう言うかもしれません。

「どうしてみんなと同じような仕事しかできないんだ」

F

〔稲垣栄洋『はずれ者が進化をつくる — 生き物をめぐる個性の秘密』〕

ちくまプリマー新書

問一 A、B にあてはまる適切な語をそれぞれの選択肢ア〜エより一つずつ選び、記号で答えなさい。

A

ア 革新 イ 均一 ウ 多様 エ 進歩

B

ア 価値 イ 市場 ウ 事業 エ 商品

問二 — 線部①「本来の『バラバラであること』の価値」によって何が可能になるのですか。本文中から十五字以内で書きぬいて答えなさい。

(十五字以内) が可能になる。

問三 — 線部②「この場合、分布をグラフで表すと()型になります。」とありますが、どのような型のグラフになると考えられますか。

() 内に入るグラフの型をイメージして、おおよその形のグラフを解答欄に書きなさい。ただし、次の1、2の説明にしたがって書くこと。

1 グラフの縦軸は雑草の数を表し、横軸は雑草の草丈の高さを表しています。草丈が最も低い雑草の数をA点、草丈が最も高い雑草の数をB点として示してあります。

2 この文章から読み取れる、雑草の高さとその数の関係がわかるように、A点とB点を曲線でつなぎなさい。

問四 — 線部③「虚ろな存在」とありますが、なぜこのような表現になっていると考えられますか。最も適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 平均値は、自然界において絶対的なものであり、実験などでは平均値から大きくはずれたものは取り除く必要さえあるものだから。

イ 平均値は、ばらついていて複雑な自然界を理解しやすくするためだけに、人間が勝手に作りだした無意味なものだから。

ウ 平均値は、本来バラバラな野菜や作物を揃えるために、人間が大変な苦勞を重ねて作りだしたものだから。

エ 平均値は、平均から大きくはずれているもののせいで、簡単に数値がずれてしまうような不安定なものだから。

問五 [C]にあてはまる語を本文中から三文字で書きぬいて答えなさい。

問六 — 線部④「じつは生物の進化は、こうして起こってきたと考えられています。」とありますが、生物の進化はどのように起こってきたのですか。本文中の語を用いて五十文字以内で説明しなさい。

問七 [D]に入る最も適切な例を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新型コロナウイルスの影響で休館が長期化した水族館では、生き物たちにとっての日常が、人がいない環境へと変化しました。特に元々繊細で警戒心の強いチンアナゴは、日頃から接している飼育員までも警戒して砂の中から顔を出さなくなりました。

イ ガラパゴス諸島には真のキツキ類はいませんが、その代わりに木の幹の中にいる幼虫を捕る鳥、キツキフィンチが誕生しました。キツキフィンチは、真のキツキ類が持っている鋭いくちばしや、長い舌などを持たず、キツキから見ればはずれ者の鳥です。しかし、キツキフィンチは、フィンチ類特有の小さな体型を活かして、小枝を使って捕食するなど、道具の使用ができるようになりました。

ウ オオシモフリエダシヤクという白いガは、白い木の幹に止まって身を隠します。が、ときどき黒色のガが現れます。白色のガの中で、黒色のガははずれ者です。ところが、街に工場が作られ、工場の煙突から出るススによって、木の幹が真っ黒になると、目立たない黒いガだけが鳥に食べられることなく生き残りました。そして、黒いガのグループができていったのです。

エ ブザーが鳴ったときにレバーを押すとエサがもらえる仕組みになっている箱に、ネズミを入れる実験があります。しばらくすると、そのネズミはブザーの音に反応してレバーを押すようになり、ブザーが鳴った直後にレバーを押す回数が増えていきました。

問八 [E]、[F]にあてはまる適切な文をそれぞれの選択肢のア～エより一つずつ選び、記号で答えなさい。

[E] ア 「どうしてみんなと同じようにできないの？」
イ 「どうして苦手なことにチャレンジしないの？」
ウ 「どうしてちゃんと勉強しないの？」
エ 「どうして周りの顔色ばかりうかがうの？」

ア 「言われた仕事は早く片付けなさい」

イ 「勝手に判断せず周りをよく見て行動しなさい」

ウ 「一人で目立つようなことはやめなさい」

エ 「他人とは違うアイデアを思いつきなさい」

問九 次のア～キの説明が本文の内容に合っていれば○を、合っていなければ×をそれぞれ記しなさい。

ア ばらつきがあるものは管理するのが大変であるため、人間は多様性に価値を見出すことができず、揃える技術を発達させてきた。

イ 生物の進化は長い年月を経て起こることなので、寿命じゅが限られている私たち人間は、その進化を観察することができない。

ウ 人間はばらつきがあるものに順位をつけたがるが、実際は「違い」があるだけなので、評価基準を気にする必要は一切ない。

エ 人間社会では人間が生み出したものさしで優劣がつけられるが、それを気にしないことが違いを大切にすることである。

オ 人間は複雑な自然界を理解するときに平均値を重視するので、平均値から大きくはずれたものを無視することがある。

カ 大人たちは子どもたちに揃っていることを求めるが、社会に出ると管理する必要がなくなるため、他人と違うことを求めてくる。

キ 人間社会では価値が低いとされるものでも、自然界の進化の過程においては価値が高い可能性がある。

問一 ①

④

られた

⑤

ねよう

③

問二

問三

問四

問五

問六

問七

動物

問八

問九

問十

1

2

3

4

問十一

問十二

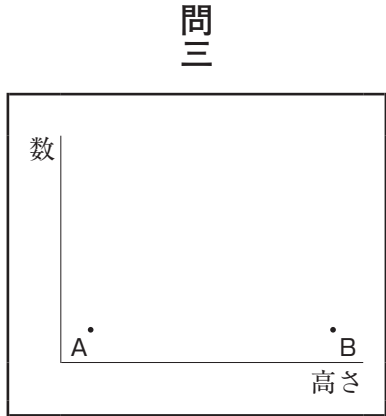
問十三

問一 ②

A

B

問二



問四

問五

問六

問七

問八

E

F

問九

オ

ア

カ

イ

キ

ウ

エ

受験番号